

日本養護教諭養成大学協議会オンラインミーティング報告 —新型コロナウイルス感染症対策のなかで、 養護教諭養成大学における教育の質をどう保証するか—

第2分科会報告「学内の演習や実技科目・授業全般」13時～14時50分

担当：松枝睦美（岡山大学），鎌塚優子（静岡大学）

第2分科会ではミーティングテーマを受けて，【1. 実技科目】，【2. 演習科目とその他授業】，【3. 評価】について，変更したことや工夫したこと，今後予定していること等，話し合いを進めました。

まず，【1. 実技科目】では「分かる」はできても「出来る」が難しいこと，DVD教材の少なさ，オンラインでは双方向を意識した工夫が必要なため対面より時間も手間もかかること，評価が難しいことが課題として挙がりました。オンラインにおける実践方法としては，包帯法などの看護技術はYouTubeの活用，家族や家庭用品を対象者として実施する，ペットボトルを活用した心臓マッサージ法等でした。問診はZOOMのブレイクアウトルームやLINEの活用等でした。子供の観察法では教員が動画を撮影し配信する方法が紹介されました。オンライン実技の評価方法は，学生に自分の手技を撮影させて動画を提出させる，個々の手技はオンタイムで教員が確認する等，外観的な評価を実施する工夫と，問診の記録としてLINEのデータを提出する等も紹介されました。一方で，健康診断など機器を使用する演習やロールプレイなどの健康相談はオンラインでは実施困難との意見が多くあがりました。授業を後期開講に変更する場合や対面授業を実施する場合では接触を最小限にするために，小グループでの対面授業とオンデマンドの視聴・課題を組合せて実施する方法が現実的であると話し合いました。ただし，オンライン授業では新たに準備を行う必要があること，対面授業では同じことを複数回実施する等，教員の負担増は課題として残りました。

次に【2. 演習科目とその他授業】では，Teams，ZOOMを活用した演習に取り組んでいる報告が多くあがりました。ここでは実際に行った感想として，ZOOMのブレイクアウトルームやTeamsのチャンネルを活用し，グループミーティングで話し合いをさせると，学生は慣れているので活用も上手で対面よりも話し合いが活発になったことや，教室移動もないためグループ活動から全体まとめて画面上ですぐに戻れるので，時間管理が容易でグループ間の共有，まとめも短時間で実施できること，チャットやアンケート機能，画面共有による発表の簡便さに加えて，模擬授業等の準備も学生同士でファイルを画面上で共有し教材を作成できることや，One Driveで保存することで継続した共有ができることなどが利点として挙がりました。教員が学生に主体性をもたせるような介入をすることで意見交換が活発になるなど，実施上のポイントについて助言もありました。

【3. 評価】では，科目ごとの教員の情報交換や連携がないことによる課題の多さや，履修学科が複数にわたる科目の問題，ネット環境が整っていない学生への配慮の必要性が

課題として挙がりました。実施としては、Teams や manaba, Moodle の機能を活用した課題の提示と提出，出欠確認も兼ねた小テスト，授業小レポート提出や感想の提出による学生の負担の軽減への取り組みや，ピア評価を取り入れグループ指導案の作成と発表，演習や実技の課題をオンラインで共有し，学生による相互評価を行うなどの工夫も紹介されました。最後に，課題が過密にならないために学生の意見を教務課で収集する体制により，課題負担特定科目の教員に個別に注意喚起を行い配慮している大学としての取組も報告されました。

以上，皆様と課題を共有し，工夫やアイデア等の意見交換ができ，たいへん有意義な時間となりました。参加された皆様にはご協力に感謝申し上げます。